

2025年度

事業報告書 及び 決算報告書

自 2025年4月 1日

至 2026年3月31日

一般社団法人 日本自動認識システム協会

2025 年度事業報告書

(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

1. 事業運営の総括

2025 年はアメリカのトランプ政権の関税引き上げ政策による貿易への影響や、ウクライナ・イスラエルなどの紛争によるエネルギー価格の高騰など、世界経済への影響が大きく日本への影響も自動車・自動車部品への影響があり、最終的に緩和措置がとられ改善したもののグローバルな貿易コスト上昇や不確実性が高まった。

そのような環境の中、物流 2024 年問題以降、倉庫・物流センターの自動化、物流 DX・システム化、物流プロセスの効率化、AI 技術の導入加速等に各種自動認識技術が大きく関与し効率化・省力化に向けた基盤技術の柱として貢献した。

2025 年度、当協会では (1) 自動認識の普及発展のため「会員サービス向上」、(2) DX と SDGs に貢献する自動認識システムの活動方針のもと、「AUTO-ID for DX 未来を形にする自動化ソリューション」と銘を打ち、自動認識技術が DX を実現し、SDGs を支え、無人化、非接触化、省力・省人化に貢献することの普及啓発を推進し、新たな社会課題への対応を当協会が主導し会員企業との連携を深めて取り組み、積極的な事業活動を実施した。

総会及び総会懇親会、賀詞交歓会の対面開催により会員及び関係者の交流機会を提供し、部会、セミナー、講習等はオンライン／オフライン併用での開催を継続して、活動参加の利便性を維持しつつ、バーコード、RFID、バイオメトリクス、システムの各部会および医療自動認識、画像認識の各プロジェクト活動の推進をはかり、自動認識技術の普及啓発、調査研究、標準化、会員企業へのサポートに取り組んだ。

普及啓発面では、「第 27 回自動認識総合展」を 9 月に東京ビックサイトにて開催し、今年度は「未来をつなぐ AUTO-ID」のテーマのもと、最新の自動認識技術と未来を見据えた自動認識技術のソリューションをアピールし国内外から多数の新規出展があった。また昨年に引き続き画像認識×AI のゾーン展示を行い 11 社の出展に多数の来場者の関心を集めた。自動認識関連の優れた技術や事例を表彰する「第 27 回自動認識システム大賞」の表彰式を多数のプレス関係者を招き展示会場内で開催し、昨年に引き続き画像認識関連のソリューションが大賞を受賞し、画像認識が昨今の自動認識のトレンドとなりつつある。さらにはバイオメトリクスの実用案件や、RFID を使ったマルチモーダルシステムが入選し、高度な自動認識システムの活用例が増えている。

また、昨年より名古屋・大阪にて交互に開催をすることになった 2 月の自動認識総合展は、今年度は大阪のマイドームおおさかにて開催し、盛況に終えることができた。

自動認識市場の発展・拡大に寄与することを目的とした「未来の AUTO-ID プロジェクト」の活動を継続し、自動認識総合展会場での新社会人・学生向け MeetUP イベントを継続して実施し、次世代を担う若者への自動認識技術、ソリューションの啓蒙活動を推進した。さらに若年層向けに小中学生向け MeetUP としての、科学技術館にて開催された「青少年のための科学の祭典」も昨年に引き続き会員企業各社の協力を得て体験教室・体験展示を行い多数の子供達のみならず保

護者の皆様にも興味を持ってもらうことができた。

自動認識技術者の育成強化を目的とした「自動認識技術者資格認定講習・試験」や、新入社員や新任担当者への基礎教育を目的とした「自動認識の基礎知識セミナー」についても、引き続き多くの方に受講いただいた。また、旬のテーマに関して幅広く情報提供を図る場として「JAISA ビジネスセミナー」の開催も行い、会員以外の聴講者にも多数参加いただき当協会の活動を幅広くアピールすることができた。

調査研究、標準化、会員企業へのサポートでは、研究開発センターを中心に新たな規格開発や規格改訂、標準化調査とその周知活動に継続して取り組んだ。部会・プロジェクト活動を通じて会員向けに情報の発信と相互交流を図るとともに、会員内外に向けた新たなガイドラインの公開やセミナーの開催等により自動認識の最新情報を幅広く発信した。

これらの事業推進においては、理事会、企画運営プロジェクトを中心に個々の事業の進捗を随時評価し、必要に応じて見直しや新たな取り組みを図るなどのフィードバックを通じて成果の最大化を図った。

これらの取り組みを通じて協会運営を継続し、新たに 16 社の新規入会をいただき、協会活動の基盤の継続ができた。2025 年度事業計画に挙げた各分野の事業は概ね実施することができた。事業収支は一部催事の規模縮小により計画を下回る結果となった。

各取り組みの概要は以下の通りである。

2. 2025 年度事業報告

2.1 広報及び普及啓発事業

(1) 第27 回自動認識総合展の開催

2025 年 9 月 10 日～9 月 12 日の 3 日間、「東京ビッグサイト」にて第 27 回自動認識総合展を開催した。今回も「未来をつなぐ AUTO-ID」・「AUTO-ID for DX 未来を形にする自動化ソリューション」を開催テーマとし、自動認識技術とソリューション活用で多くのイノベーションを作り出すきっかけを提供し、本展示会が日本で唯一の自動認識関連の展示会であることを強く印象付けた。

展示会と同時開催する「BT Spice 自動認識セミナー」では、自動認識技術の最新導入事例や最新技術動向を紹介した。併せてセミナー会場では、「チュートリアルセッション」、「2025EPC RFID FORUM」、「出展者プレゼンテーション」、「自動認識システム大賞表彰式&講演会」等を開催し、自動認識に関する様々な情報発信を行った。

同時期開催展として「国際物流総合展 2025」と相互入場を実施し、例年のユーザ来場者に加え、様々な分野の方々にも来場いただいた。

(2) 第22回自動認識総合展大阪の開催

2026 年 2 月 19 日～2 月 20 日の 2 日間、大阪市「マイドームおおさか」にて自動認識総合展 大阪を開催した。また、会場内にて自動認識セミナーを同時開催し、関西地域における自動認識技術・ソリューションの普及促進に努めた。

出展社数は 40 社と前回の大阪の 36 社を上回ったが、来場者数は 1817 名と前回の大阪の

1892 名にわずかに届かなかった。自動認識セミナーは「業務改善事例に学ぶ RFID の活用」や「出展者プレゼンテーション」で定員を上回る集客となるなど来場者に好評をいただき、全体で 549 名となり、前回大阪の 417 名を上回る集客に貢献した。

(3) セミナーの開催

① 展示会セミナー

第 27 回自動認識総合展、第 22 回自動認識総合展大阪において「BT Spice (Business & Technology Spice) 自動認識セミナー」を同時開催した。最近のトレンドや市場の変化を捉え、よりユーザ視点に立った自動認識ソリューションを各分野のテーマで、流通・物流現場、医療現場、安全と効率化、自動認識技術を活用した事例等を紹介した。第 27 回自動認識総合展では今回初めて EPC RFID FORUM (GS1 JAPAN) と共同開催し、事前申し込みで定員オーバーになる講演が出るなど、非常に集客に貢献出来たと共に、来場者より高評価を得た。

② 自動認識の基礎知識セミナー

当協会では自動認識技術の普及啓発活動の一環として自動認識の基礎知識を広く学んで頂くことを目的として、2018 年度より開催している「自動認識の基礎知識セミナー」を引き続き開催した。開催形式は、当協会の会議室を会場とした集合形式と、各企業に協会講師を派遣する講師派遣形式の 2 つの形態で実施し、自動認識技術の普及啓発に努めた。特に講師派遣形式については社内教育の一環として多くの企業に活用いただいている。本年度の結果は以下の通りである。

- ・ 集合形式 : 6 回開催 (4/23、6/20、8/28、10/21、12/11、2/25) 参加者 56 名
- ・ 講師派遣形式 : 1 社 6 回 6 講座開催 参加者約 220 名 (延べ人数)

③ JAISA フォーラム

当協会の部会・プロジェクト活動及び研究開発活動の内容と成果の共有のみならず、広く JAISA 活動を発信し会員増加に繋げることを目的として、生成 AI 関連の特別セミナーを企画し、集客増加を狙いオンライン開催とした。また冒頭には経済産業省の須賀課長にも動画にて登壇いただいた。会場での参加者は14名、オンラインでの参加者は186名となり、その内44%が非会員の聴講となった。JAISA 活動を広く発信し、最新の自動認識技術の活用動向や協会活動及び部会・プロジェクト活動の内容を協会内外へ広く周知する目的に対しては一定の貢献ができた。

④ JAISA ビジネスセミナー

2024 年度まで実施してきたが、無償化により収益事業となり得ないことから今年度は開催を見送った。ただし、JAISA フォーラムの集客と自動認識技術の未来を考察することを目的として外部講師に登壇いただき生成 AI をテーマにした講演を 2 本実施した。

(4) 自動認識システム大賞

自動認識関連の技術やシステムを用いた先進的かつ、その効果が極めて顕著な優れた作品を公募し、ユーザ企業からの応募も含め 21 件の応募を集めた。産学官の業界有識者の厳正なる

審査により、自動認識システム大賞 1 件、優秀賞 2 件、産経新聞社賞 1 件、特別賞 1 件を選定し表彰した。本年度も展示会場内のセミナー会場にて表彰式を実施、受賞各社より受賞作品のプレゼンを行った。

また、本事業の成果を報道機関に取材、掲載いただくと共に、最先端導入事例として協会ウェブサイト及び自動認識技術情報誌「JAISA NOW」にて紹介し、自動認識技術の啓発に努めた。

(5) 会報誌「JAISA」、自動認識技術情報誌「JAISA NOW」

協会事業活動の紹介記事を中心とした会報誌「JAISA」を季刊発行し、協会ウェブサイトに掲載した。誌面では、例年の協会催事の報告に加え、各部会・プロジェクトの活動や最新の技術動向の紹介を行った。また、9 月には各部会活動、市場動向や最新の技術動向を紹介した自動認識技術情報誌「JAISA NOW」を発刊。自動認識総合展及び当協会主催のイベントや関係団体主催の展示会場にて配布した。会員及び一般の方々に広く紹介し自動認識技術の普及・啓発事業に活用した。

(6) ウェブサイトによる情報提供

協会ウェブサイトでは、自動認識総合展及び併催セミナー、自動認識システム大賞、自動認識技術者資格認定試験、部会・プロジェクトの活動状況、標準化関連情報、各種ガイドラインや自動認識システム導入事例集等の協会活動や自動認識関連技術動向に関する幅広い情報提供を行った。

(7) ツール類の提供

高機能 JIS 向け「超精密テストチャート」の提供

昨年度に引き続き、「JIS X 0527（自動認識及びデータ取得技術ーバーコードプリンタ及びバーコードリーダーの性能評価仕様）」で規定しているバーコードリーダーの読取性能試験で用いる超精密テストチャートの有償提供を継続実施したが 1 セットの受注で計画未達に終わった。また新たに ISO/IEC 24458 用テストチャートの有償提供開始したが、反応は得られなかった。

(8) 広報活動

当協会の認知度向上と活動内容広報のため、パブリシティを推進し業界紙誌で記事掲載を図った。メールマガジン「JAISA 通信」（対象リスト約 70,000 名）では協会催事の告知と部会・プロジェクト活動の紹介を定期的（概ね 2 回/月）に発信し、ウェブサイトと連携した情報発信を行った。特にセミナーやイベントの集客においては大きな効果を発揮した。

また、会報「JAISA」・「JAISA NOW」では、各種セミナー・講演会、ワークショップのなどの内容や、部会・プロジェクトの活動計画と実績を紹介した。

全国紙や業界紙誌からの自動認識に関する取材にも対応し、一般向け情報発信も実施した。

(9) 未来の AUTO-ID プロジェクト

「未来の AUTO-ID プロジェクト」は、『自動認識技術に係る事業者（ユーザ・メーカー・SIer 等）に対して、「自動認識技術の活用事例の具現化」を体感できる情報発信をおこなうこ

とで、自動認識システムの認知度を高め、自動認識の明るい未来に向けて自動認識市場の発展・拡大に寄与する』ことを目的として活動を継続した。本年度も、「青少年のための科学の祭典 2025 全国大会」に出展し、社会人向け現場見学会も継続計画し、会報 JAISA を活用した若手に向けた情報発信企画を推進した。また、9 月の自動認識総合展会場では昨年に引き続き「AUTO-ID Meet UP」(学生および若手社員向け見学ツアー)を開催し自動認識最先端ソリューションを体験していただいた。

2.2 資格認定事業

自動認識技術者の育成・確保を図ると共に、その技術を広く社会に知らしめていくことを目的とする自動認識技術者認定登録を行うため、下記の日程にて講習及び試験を実施した。

自動認識基本技術者に関しては、受講者の負担を減らすために、講習をオンライン、試験を会場で行っているが、昨年度よりオンライン講義のオンデマンドによる再配信も実施した。また、今年度は受験者のご要望に応え、オンデマンド配信の期間を 1 週間に延長し、講義の復習時間を大幅に増加した。

RFID 専門技術者についても、基本技術者と同様の目的で 3 日間の講習を会場、オンラインのいずれかを選択できるようにし、受講者の増加をはかった。

これにより、基本技術者資格認定者は 3,153 名、RFID 専門技術者資格認定者は 332 名、バーコード専門技術者資格認定者は 35 名となった(いずれも累計)。

- ・ 2025 年 7 月 第 54 回 自動認識基本技術者資格認定講習・試験
講習はオンライン、試験は東京 1、東京 2、大阪、仙台の 4 会場
- ・ 2025 年 11 月 第 55 回 自動認識基本技術者資格認定講習・試験
講習はオンライン、試験は東京 1、東京 2、名古屋、福岡の 4 会場
- ・ 2026 年 2 月 第 20 回 RFID 専門技術者資格認定講習・試験
講習は会場(JAISA 会議室)/オンライン、試験は JAISA 会議室

2.3 国内市場動向調査

国内唯一の自動認識産業団体として、自動認識市場の市場動向の把握と、会員企業への情報発信を行うため、本年度も会員企業のみならず、非会員企業に協力を要請、出荷実績調査を実施した。各部会・委員会等から選出されたメンバーで構成する市場統計委員会が中心となり、2025 年 1 月から 12 月までの 1 年間に国内市場に出荷された各種自動認識機器、関連ソフトウェア、及び消耗品(RFID タグ等)をアンケート形式で調査、分析し 2025 年における市場規模を算出した。併せて 2026 年の市場動向についての数値予測を行った。

2.4 規格の立案及び標準化の推進事業

(1) ISO/TC 122/WG 12 標準化推進

ISO/TC 122(包装)/WG 12(サプライチェーンへの物流技術の適用)の国内対策委員会として ISO/TC 122/WG 12 国内委員会を引き続き開催し、バーコード、二次元シンボル、RFID 等の自動認識技術を物流に活用するための関連規格の審議を行うと共に、ISO/TC 122 の国内審議団体である公益社団法人 日本包装技術協会と連携・協力し、国際標準化活動を行った。

(2) ISO/IEC JTC 1/SC 31 標準化推進

ISO/IEC JTC 1/SC 31(自動認識及びデータ取得技術)/WG 1(データキャリア)、WG 2(データストラクチャ)、WG 4(RFID)、WG 8(自動認識規格のアプリケーション)の国際標準化について一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)との連携・協力活動を行った。

また、JEITA が主催する SC31/WG 1 専門委員会及び WG 合同委員会に委員として参加し、自動認識技術に関連した各種 ISO/IEC 規格及び JIS 規格の検討、コメント対応、投票意見提出など審議に参加した。

(3) ISO/IEC JTC 1/SC 37 標準化推進

ISO/IEC JTC 1/SC 37(バイオメトリクス)の国際標準化について、本年度も JTC 1 技術委員会、SC 37 専門委員会、SC 37/基礎 WG、応用 WG の小委員会と連携して活動した。

また、バイオメトリクスに関連する国際標準化の検討状況の国内周知と普及・啓発を図るため、生体認証国際標準化セミナーを本年度は配信型ウェビナー方式にて 10 講演を 8 日間に亘って開催し、126 名に視聴された。

2.5 部会・プロジェクト活動

部会・プロジェクトでは、会員サービスの向上を念頭に、4 部会 2 プロジェクトの活動を通して会員企業の事業に役立つ“付加価値”を提供するため、仲間作りの場の提供、業界最新情報や関連省庁の最新情報の提供や普及啓発活動、市場拡大のために解決すべき業界共通課題の発見及びその解決への取組みの場として活動に取り組んだ。部会・プロジェクトの各グループが主催する会議は、オンライン参加も可能とする形で開催した。

2.5.1 部会・プロジェクト活動全般

(1) 会員への業界情報提供と会員相互交流・親睦活動

① 講演会・セミナーの開催

会員相互の仲間作りの場、業界最新情報及び関連省庁の最新情報等を提供するため、各部会・プロジェクトにおいて情報交流会を 2 ヶ月に 1 回開催し、市場ニーズやユーザの導入事例、各社の製品紹介、最新の技術動向、標準化の情報、当協会で行っている研究開発事業の活動内容や成果等に関する講演会・セミナーを開催した。

② ユーザ見学会の開催

各部会・プロジェクトにおいて、自動認識技術を導入して成果を上げている物流センターや工場、病院等の施設を訪問するユーザ見学会を 9 回開催、合計 92 名が参加した。物流・医療・公共交通における自動認識技術の導入現場を見学すると共に、システム導入の背景、導入効果や課題、自動認識技術に対する期待等について意見交換を行った。

(2) 市場課題の解決に向けた活動

① 課題抽出への取組みの実施

自動認識技術の普及啓発や自動認識市場拡大のために解決すべき業界共通課題の発見のため、関連するセミナー、技術グループ会議や意見交換会、アンケート調査等の方法により、各

部会・プロジェクトのメンバーからの課題提起を促すと共に、業界に共通する課題を見出すための活動を行った。

② 業界課題の解決に向けた活動の実施

業界の課題抽出への取り組みの結果として明らかとなった共通課題等の解決のため、各部会・プロジェクトに設置した技術グループや作業グループにおいて、その解決に向けた活動を行った。また、関係省庁や関連団体への積極的な働きかけを通して関係者との協力関係を醸成し、外部からの研究開発受託事業や自主事業として、関係省庁や標準化団体、ユーザ団体、関連企業とも協力・連携して課題解決に結びつけるための活動を行った。

(3) 技術分野横断活動

① 部会・プロジェクト連絡会の開催

部会・プロジェクト連絡会を6月と11月に開催した。連絡会には、部会・プロジェクト幹部、協会三役とJAISA担当事務局等 延べ62名が出席した。本会では部会・プロジェクトの活動活性化や相互協力・連携が必要な活動の発見とその実現に繋げるため、それぞれの活動内容や問題意識とその解決への取り組み、相互に連携が必要な課題の共有や意見交換を行った。

② 合同部会（自動認識システム大賞受賞作品紹介）の開催

第27回自動認識システム大賞受賞作品の内容を一度に聴講できる機会を会員企業に提供するため、10月に合同部会をオンラインで開催した。本会では、第27回自動認識システム大賞の大賞、優秀賞、産経新聞社賞、特別賞の各賞を受賞した5つのシステムの詳細内容に関して受賞企業による講演を行った。

③ 部会開催情報の各部会・プロジェクト間共有の実施

各部会・プロジェクトの情報交流会等で開催するセミナー等を、他の部会・プロジェクトからも参加する事ができるよう、セミナー開催情報を必要に応じて部会・プロジェクト間で共有した。

(4) 会員外への普及啓発活動

① 市場への情報提供活動の実施

自動認識業界の発展に寄与するため、市場への情報提供と啓発のための活動を実施した。国際規格、国内規格、自動認識技術の導入事例、当協会の研究開発事業等の事業活動内容を、会員企業に限らず広く一般に対して周知を図った。各種セミナー、協会メールマガジン、協会ウェブサイト、会報などの発行物や各種SNSなど様々なチャネルを活用して情報発信を行った。

② 業界啓発のための活動の実施

各部会で市場啓発のための活動に取り組んだ。

バーコード部会では、2018年度に規格制定されたJIS X 0527(バーコードプリンタ及びバーコードリーダーの性能評価仕様)の規格説明等の周知活動として、昨年度に引き続き、オン

ラインセミナーを4回開催した。

RFID 部会では、RFID 技術グループが過去に発行したガイドラインの改訂に取組み、無線局免許のデジタル化に対応した「920MHz 帯 RFID 無線局申請ガイドライン ver.3.1」を公開した。アプリケーション技術グループでは、技術グループが昨年度から原案作成を行うなど活動を推進した JIS X 0560(サプライチェーンへの RFID の適用)が 11 月 20 日に制定された。また、RFID の導入を成功に導くための情報として 1,000 ダウンロードを突破した「RFID 活用ガイドライン」の改訂活動を行った

バイオメトリクス部会では、「生体認証国際標準化セミナー」を開催し、バイオメトリクスに関係する国際標準の普及啓発に努めた。また、「デジタル倫理ワークショップ」を東京、名古屋、大阪で開催し、生体認証を円滑に導入するためのポイントを学ぶ機会を提供した。

システム部会では、部会メンバーが講師として自動認識技術の普及と市場拡大のために自動認識技術の効果的な活用事例を広く一般向けに紹介する「自動認識システム導入事例セミナー」を昨年度に引き続いて開催した。本セミナーには過去最高となる 380 名が参加した。

2.5.2 各部会・プロジェクト活動

(1) 部会・プロジェクト合同活動関係

- ・部会・プロジェクト連絡会 : 2 回開催
- ・自動認識システム大賞受賞作品セミナー : 1 回開催

(2) バーコード部会

- ・バーコード部会マーケティンググループ幹事会 : 2 回開催
- ・バーコード部会情報交流会 : 5 回開催
- ・バーコード技術グループ
 - ISO/IEC TR24720 改訂 WG : 4 回開催
 - JIS X 0520 改訂 WG : 6 回開催
- ・ユーザ見学会 : 1 回開催

(3) RFID 部会

- ・RFID 部会幹事会 : 6 回開催
- ・RFID 部会情報交流会 : 6 回開催
- ・RFID 技術グループ会議
 - ガイドライン改訂 WG : 10 回開催
 - WPT 検討 WG : 4 回開催
- ・ARIB 電子タグ作業班会議 (WPT) 参加 : 1 回参加
- ・アプリケーション技術グループ会議
 - 活用ガイドライン改訂 WG : 6 回開催
 - JIS X 0560 原案作成 WG : 17 回開催
- ・ユーザ見学会 : 2 回開催

(4) バイオメトリクス部会

- ・ 幹事会 : 2 回開催
- ・ バイオメトリクス部会総会 : 1 回開催
- ・ 生体認証国際標準化セミナー : 1 回開催
- ・ デジタル倫理ワークショップ（東京／札幌／博多） : 3 回開催
- ・ 画像合成手法を用いた生体認証性能評価方法国際標準化委員会 : 5 回開催
- ・ 異業種連携生体認証プロセスに関する国際標準化委員会 : 5 回開催
- ・ 精度評価技術グループ会 : 6 回開催
- ・ 技術検討会 : 8 回開催

(5) システム部会

- ・ システム部会幹事会 : 3 回開催
- ・ システム部会情報交流会 : 4 回開催
- ・ ユーザ見学会 : 2 回開催

(6) 医療自動認識プロジェクト

- ・ 医療自動認識プロジェクト会議 : 6 回開催
- ・ プロジェクト幹部会 : 6 回開催
- ・ 見学会 : 2 回開催
- ・ 医療機器統合流通研究会参加 : 12 回参加
- ・ 内閣府 SIP3 期 B-5 チーム参加 : 10 回参加
- ・ GS1 ヘルスケアジャパン協議会合同部会参加 : 12 回参加

(7) 画像認識プロジェクト

- ・ 情報交流会 : 6 回開催
- ・ プロジェクト幹部会 : 8 回開催
- ・ WG 会議
 - 技術調査・適用 WG : 4 回開催
 - ガイドライン検討 WG : 10 回開催
 - 交流推進 WG : 7 回開催

2.6 研究開発活動

研究開発活動は、市場創造や産業育成のために課題や阻害要因を解決するための活動と位置付け、会員企業をはじめ、関係組織・団体等とも連携して活動した。

また、自動認識市場の活性化による会員企業のビジネス拡大に貢献するために、事業の成果を部会・プロジェクト会議やオープンセミナー等を通じて、会員企業を含めた広く一般に情報提供した。

(1) バーコード関連

①ダイレクトパーツマーキングガイドラインの改訂

ISO/IEC TR 24720 改訂は AIM と JAISA の共同作業であり、ユーザーフレンドリーなテクニカルレポートとして改訂することを第一義とし、テクニカルレポート構成案を作成する。JAISA 提案で開発されたテクニカルレポート (TR) であり、この改訂に米国と共同で取り組んだ。2025 年 10 月の WG1 北京国際会議において DTR 投票を SC31 に提言することが決定。

② 単品への GS1 二次元シンボル印字・読み取り技術要件に関する調査研究

GS1 二次元シンボルを、単品（消費者購入単位）のフィルムや紙ラベルに印字する場合、どのような品質のシンボルを印字することが可能かについて、印字、検証、読み取りの技術検証を GS1 Japan 受託事業として実施した。

③ JIS X0520 改正「一次元シンボルの印字品質」

国際規格として発行されている ISO/IEC 15416（最新版）の IDT 規格として、JIS X0520 の改正行う。（一社）日本規格協会（JSA）からの受託事業（期間は 2026 年 1 月～8 月）で、技術グループメンバー中心に改正作業を行った。

(2) RFID 関連

① JIS X 0560 原案作成

ISO/IEC 17360 が 2023 年に発行されたことに伴い、この規格の日本国内での普及を図るために JIS 化の活動を行った。JIS 原案の作成は RFID 部会アプリケーション技術グループに設置した JIS 原案作成ワーキンググループにおいて推進した結果、11 月 20 日に「JIS X 0560 自動認識及びデータ取得技術－RFID のサプライチェーンへの適用－製品タグ付け、製品包装、輸送単位、リターナブル輸送器材及びリターナブル包装器材」として発行された。

(3) バイオメトリクス関連

① 画像合成手法を用いた生体認証性能評価方法に関する標準化

生体認証の利活用の広がりに伴い、多様な利用環境における生体認証の性能評価が必要となったが、その評価サンプル画像の収集には膨大なコストがかかるため、画像合成手法を用いて作成した画像により性能評価を行う方法を国際標準化する活動を、経済産業省の受託事業として実施した（3 か年計画の 3 年目）。今年度は精度評価技術 Gr 会、技術検討会と連動させ、サンプル画像が性能評価に使える画像品質であるかの評価を行った。その結果を反映させる形で、国際標準化 NP 提案を作成。SC37 国内審議を経て国際会議にて NP 提案を実施。採択された。

② 異業種連携生体認証プロセスに関する国際標準化

従来の ISO/IEC24714 で規定された生体認証プロセスは、事業者と利用者の 2 者関係が前提となっていた。しかし、近年では生体認証事業者、サービス事業者、利用者の 3 者からなる異業種連携のビジネススキームとなってきた。しかしながら、3 者間の位置づけや機能・役割については必ずしも明確になっていないのが現状である。この様な状況では、利用者の望まない形で個人情報（生体情報や利用履歴など）の利用やプライバシー侵害が懸念され、ビジネス推進のリスクとなっている。その解決のため、国際標準化活動を推進し、2025 年 1 月の SC37 国際会議において規格改定が認められ、ISO/IEC24714 の作業原案作成とコメント対応を経済産業省の受託事業（3 か年計画の 2 年目）として実施した。

2.7 自動認識システム等に関する内外関連機関等との交流及び協力

関係省庁や団体の活動に積極的に協力・参画し、市場ニーズ、技術トレンド、標準化動向、国の施策などの情報収集ネットワークを構築、維持することで、当協会が取組むべき新領域の情報を掴むとともに会員企業に的確な情報提供を実施した。

(1) 関連省庁の指導及び産業育成計画や行政施策の把握

経済産業省をはじめ、総務省等関係省庁や関係諸団体との積極的な交流、情報収集により自動認識関連情報を迅速に入手し会員企業への情報提供に努めた。また、関係省庁からの会員企業等への指導・行政施策情報など公的機関からの周知情報は、適宜会員企業の連絡担当者宛に情報配信し、会員企業への情報共有に努めた。

(2) 産業団体、標準化団体等との交流

公益社団法人 日本包装技術協会、工業会 日本万引防止システム協会、一般社団法人 電子情報技術産業協会、一般社団法人 日本自動車タイヤ協会、一般財団法人 流通システム開発センター（GS1 Japan）等をはじめとする関連団体が行う標準化、規格作成等に委員として積極的に参画し、規格策定を支援した。また、物流、包装、セキュリティ関係諸団体との情報交流も実施し、関係構築と自動認識関連の普及啓発を実施した。

(3) 研究開発関連団体との連携

学会や大学研究部門、国立研究開発法人産業技術総合研究所との交流を図った。特に、バイオメトリクス関係では、経済産業省受託事業「異業種連携生体認証プロセスに関する国際標準化」において、国際標準規格（ISO/IEC 5152）開発に産業技術総合研究所より委員参画頂いた。また、電子情報通信学会バイオメトリクス研究会（BioX 研）主催のシンポジウム開催（SBRA2025）に協賛や学会発表参加を行い、JAISA のプレゼンス向上をはかった。

3. 運営体制の強化

当協会が時代の変化に的確に対応し、永続的に自動認識業界の発展を牽引し、貢献できる運営体制の強化に努めた。

3.1 企画運営プロジェクト

理事会より迅速に協会運営全般を評価し、事業運営を的確に判断する目的で発足した当プロジェクトを本年度も継続して開催した。（12 回開催：毎月第 2 火曜日開催）

また、各 KPI レビューを確実に実施し当協会の運営全般について検討することで理事会運営を支援した。

3.2 部会・プロジェクト・委員会活動

研究科発センター主導のバーコード・RFID・バイオメトリクス・システムの各部会、画像認識・医療自動認識の各プロジェクトへの積極参加、及び事務局運営の未来の Auto-ID プロジェ

クト、展示会・セミナー・市場統計・自動認識資格普及・システム大賞表彰審査の各員会の運営を、活動の活性化、適格な成果物、効果的な普及・啓発に向けての対応を進めた。

4. 事業報告の附属明細書

2025 年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。